

潜在性結核感染症(LTBI)について

国立病院機構 宇都宮病院



1 潜在性結核感染症(Latent Tuberculosis Infection : LTBI)とは

明らかな臨床的症候を有さず、細菌学的検査や胸部画像検査(胸部X線・CTなど)でも結核を示唆する所見はないが、結核に感染していること自体が治療を必要とする疾患状態であるという概念
従来は、結核の発病を予防するために「予防内服」(化学予防)を行ってきたが、結核の根絶を目指すためには「単なる将来の発病リスクに備えての投薬としてではなく、現在の『潜在性結核感染症』という疾患に対しての治療が必要である」という考え方に基づくものである

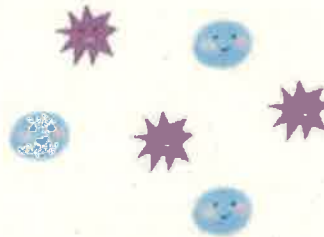
2 潜在性結核感染症の対象者

- ・結核患者との接触があり、潜在性結核感染症として治療が必要と認められる者
- ・既感染者で、免疫抑制薬などを使用するために治療する者



3 治療の目的

結核発病への進展を防止するため



4 治療効果

潜在性結核感染症に対する治療効果は60～80%であり、治療を行っても発病する可能性はある

5 治療内容と起こりうる副作用

- (1)薬剤:イソニアジド(INH) 初発患者がINH耐性などの場合はリファンピシン(RFP)を使用
- (2)投与量:成人ではINH 5 mg/体重kg/日 (1日最大投与量 300 mg/日)
RFP 10 mg/体重kg/日 (1日最大投与量 600 mg/日)
- (3)投与期間:INHは6ヶ月間または9ヶ月間(RFPは4ヶ月間または6ヶ月間)
- (4)副作用:発疹、肝機能障害、末梢神経障害など



不明な点については、当院、保健所、調剤薬局などにご連絡ください






潜在性結核感染症(LTBI)について 第2報

国立病院機構 宇都宮病院



- * 日本結核病学会は、潜在性結核感染症（LTBI）に対する新しい治療指針「潜在性結核感染症治療指針」を学会誌『結核』平成25年5月号で公表しました。
- * LTBI 治療を効果的に行うために発病リスクに応じた治療を推奨し、LTBI 治療対象と治療薬剤・期間等について示されています。

潜在性結核感染症治療指針(一部抜粋)

1. LTBI 治療対象の決定に際して注意すること
①感染・発病のリスク, ②感染の診断, ③胸部画像診断, ④発病した場合の影響, ⑤副作用出現の可能性, ⑥治療完了の見込み
2. 積極的に LTBI 治療を検討するのは,
 ①HIV/AIDS, ②臓器移植(免疫抑制剤使用), ③珪肺, ④慢性腎不全/透析, ⑤最近の結核感染(2年以内), ⑥胸部X線画像で線維結節影(未治療の陳旧性結核), ⑦生物学的製剤の使用, ⑧多量の副腎皮質ステロイドなど。
3. 複数の発病リスクが重複した場合に LTBI 治療の検討が必要なものは,
①経口および吸入副腎皮質ステロイド剤の使用, ②その他の免疫抑制剤の使用, ③糖尿病, ④低体重, ⑤喫煙, ⑥胃切除等
4. LTBI 治療薬剤と期間
原則としてイソニアジド(INH)を6カ月または9カ月内服 
5. LTBI 治療に際しては、
薬の中断の危険について  患者に対して副作用および発病の危険、および健康教育が必要です。
6. 感染症法の規定によって保健所への患者発生の届出が義務付けられており、保健所はそれに基づく登録、訪問指導、服薬支援を行う。



ご不明な点については、当院、保健所、
調剤薬局等にご相談ください。



潜在性結核感染症(LTBI)について 第3報

国立病院機構 宇都宮病院



もし、検査により、結核に感染していることが分かったら!?

「結核に感染している」ということは、結核菌が体の中に入り、それに対する体の反応が起こっているということです。これは、結核を発病していることとは違います。

現在のあなたの状態は、発病ではなく、体の状態は正常ですし、他の人に結核菌を感染させる危険はありません。現在の状況は、「潜在性結核感染症(LTBI)」といいます。

しかし、今後、結核を発病する可能性があります。感染している人は発病を予防する薬を飲むことにより発病の可能性を減らすことができます。

服用する薬は、『イソニアジド(商品名:イスコチン)』を6カ月または9カ月内服します。

医薬品名: イスコチン錠 100mg



イスコチン原末



次のような方は事前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください

- ・肝障害の既往がある者、妊婦、HIV 陽性者、アルコール多飲者については、治療開始時、有症状時および定期的な肝機能検査が必要です。

この薬の飲み方

- ・薬を飲みはじめたら、毎日忘れずに飲んでください。飲んだり飲まなかったりすると、薬の効きが悪くなります。
- ・飲み忘れた場合は、絶対に2回分を一度に飲んではいけません。

食べ物で注意していただきたいこと

・ヒスチジンを多く含有する魚【マグロ、ブリ、ハマチ、サバなどの青魚や干物等】を食べると、頭痛、紅斑、嘔吐、そう痒などが起きることがあります。

多く含まれる食品は新鮮なものを食べるようにしてください。食べ過ぎに注意!

・チラミンを多く含有する食物【熟成したチーズ(カマンベール、カダー、ゴーダ、ブルー等)、ワイン、サラミ、レバー等】を食べると血圧上昇、動悸が表れることがあるので、大量に食べることは控えましょう。

副作用等気をつけていただくこと (以下の副作用はすべてを記載したものではありません)

・肝臓が悪くなり食欲がなくなる、発疹が出て痒くなる、熱が出るなどのアレルギー反応が出る、その他の副作用が起こる可能性があります。多くの方は副作用を注意しながら薬を継続することができます。

・実際に副作用が起こり、食欲がなくなったり、発熱、発疹、手のしびれ、呼吸困難、咳の増加などの症状があったら外来に連絡して来てください。

*上記以外でも気になることがある場合は、医師または薬剤師に相談してください。

LTBI 治療は、保健所で手続きをすることにより公費による補助が受けられます。このため、病院は保健所に連絡し、あなたは保健所の保健師さんに相談していただくこととなります。

